

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成29年度農作物病害虫発生予察情報について

平成29年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

平成29年度農作物病害虫発生予報第3号

平成29年6月2日
徳島県

I. 普通作物

早期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率 0.5%, 発病度 0.0)。なお、補植用置き苗でも発生を認めていない(過去10年間の発生圃場率:平成19~23年は未確認,平成24年は9.1%,平成25~28年は未確認)。
- (2) 6月1日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生を認めたら直ちに液剤による防除を行う。また、常発田では粒剤を予防散布する。

普通期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年より早い(前年より早い)
発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「少~中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が14.3%, 発病度が 1.4で、平年(0%, 0)に比べ高い。なお、補植用置き苗でも、発生圃場率が22.2%と過去10年間で最も高い(過去10年間の発生圃場率:平成19~23年は未確認,平成24年は14.3%,平成25~28年は未確認)。
- (2) 6月1日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。

- (2) 早期発見に努め、発生を認めたら直ちに液剤による防除を行う。また、常発田では粒剤を予防散布する。

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が21.4%、25株当たり成虫数が1.3頭で、平年(14.6%、0.6頭)に比べやや高い。
(2) 6月1日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し、殺虫剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤を水面施用する。
(2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が発生しやすいので、深水を避け、根を健全に保つ。

サツマイモ

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が30.8%、寄生株率が8.6%で、平年(68.3%、20.7%)に比べやや低い。
(2) 6月1日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

イモキバガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が15.4%で、平年(12.1%)並の発生であるが、被害葉率は1.4%で、平年(0.3%)に比べやや高い。
(2) 6月1日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に、薬剤を散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が69.2%、寄生葉率が8.4%で、平年(28.1%、2.3%)に比べて高い。
(2) 6月1日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

II. 果樹 カンキツ

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年より遅い(前年より遅い)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場(勝浦町)での第1世代幼虫の発生は5月21日に初確認された(平年:5月17日,前年:5月15日)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は, IGR剤及びネオニコチノイド剤の場合, 発生確認の10~15日後(5月31日~6月5日), 有機リン剤の場合, 35~40日後(6月25日~6月30日)である。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並~やや多く(前年より多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では, 旧葉での発生圃場率が56.3%, 寄生葉率が13.3%で, 平年(39.7%, 6.5%)に比べやや高い。

(2) 6月1日発表の1か月予報では, 平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。防除の際には, 十分な量の薬液を散布する。

(2) 薬剤抵抗性が発達しやすいので, 同一系統薬剤の連用を避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で, 発生程度は「少~中」

2) 予報の根拠

(1) 勝浦町での予察灯調査では, ツヤアオカメムシはほぼ平年並に推移し, チャバネアオカメムシは5月4半旬以降平年に比べやや少なく推移している。

(2) 上板町での予察灯調査では, ツヤアオカメムシは5月3半旬まで平年に比べやや多く推移したが, 5月4半旬以降は平年並に推移している。また, チャバネアオカメムシは, 平年並に推移している。

(3) 6月1日発表の1か月予報では, 平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, やや発生助長的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年
5.1	12	12	188	28	36	72	3	34	50	18
5.2	9	3	180	28	53	61	10	37	19	25
5.3	68	13	380	96	60	70	5	43	216	37
5.4	30	4	27	104	108	29	2	27	76	33
5.5	45	2	94	132	52		0	17	103	39
5.6		4	29	222	64		1	33	249	39
6.1		0	69	154	39		0	34	116	21

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田					上					板					田				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年
5.1	10	3	225	12	7	6	0	38	2	6	11	3	10	3	14	16	1	18	19	18	2	1	8	56	12	7	0	6	33	10
5.2	16	0	61	4	8	11	3	10	3	14	16	1	18	19	18	2	1	8	56	12	7	0	6	33	10	7	3	26	50	21
5.3	21	2	35	34	13	16	1	18	19	18	2	1	8	56	12	7	0	6	33	10	7	3	26	50	21	7	0	44	107	13
5.4	4	0	154	40	18	2	1	8	56	12	7	0	6	33	10	7	0	44	107	13	7	0	44	107	13	7	0	44	107	13
5.5	7	3	26	50	21	7	0	6	33	10	7	0	44	107	13	7	0	44	107	13	7	0	44	107	13	7	0	44	107	13
5.6		0	44	107	13		0	46	52	14		0	46	52	14		0	46	52	14		0	46	52	14		0	46	52	14
6.1		0	7	42	11		3	38	30	9		3	38	30	9		3	38	30	9		3	38	30	9		3	38	30	9

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ, キリ等)から成虫が飛来するので, 園内を巡回し, 飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので, 広域一斉防除が有効である。

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では, 発生圃場率が33.3%で, 平年(17.9%)に比べやや高いが, 発病株率は3.1%で, 平年(4.0%)並の発生である。
- (2) 6月1日発表の1か月予報では, 平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発してからでは防除効果が劣るので, 予防散布や発生初期の防除に重点をおく。ネギには薬液が付着しにくいので, 展着剤を加え, 薬剤が確実に葉全体に付着するように散布する。
- (2) 肥料切れして草勢が衰えると発病が助長されるので, 肥培管理を適切に行う。
- (3) 被害葉は伝染源となるので, 圃場周辺に野積み・放置せず, 速やかに処分する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では, 発生圃場率が88.9%, 葉の被害度が12.7で, 平年(68.6%, 6.3)に比べやや高い。
- (2) 6月1日発表の1か月予報では, 平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し, 生育初期の被害を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので, 絶対に圃場周辺に野積み・放置せず, 速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が95.8%、葉の被害度が9.3)。
- (2) 6月1日発表の1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、生育初期の被害を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。